溶接構造シンポジウム2023講演論文集(2023年11月)

溶接構造シンポジウム講演論文集の原稿執筆要領

溶接大学工学部材料工学科 ○溶接　太郎

接合（株）技術開発センター 　構造　次郎

Instructions for the Preparation of Manuscripts

by Taro YOSETSU，Jiro KOZO

１．緒　言

　ここには溶接構造シンポジウム講演論文集の原稿を作成するために必要なレイアウトやフォント等の書式が記述されています．本講演論文集は投稿された原稿（PDFファイル）をそのまま使用しますので，ここに記載されている事項に従い，原稿を作成してください．

　原稿はA４紙に１段組で執筆ください．上下左右ともにマージンは２ｃｍとします．本文は４８文字×５０行程度の横１段組とします．文字サイズは，タイトルなどを除き，基本的に明朝１０ｐｔを用いて下さい．行間は約１４ｐｔで作成して下さい．

　なお，英文で原稿を作成されても結構です．英語版の執筆要領はありませんが，和文の本書式に準じて下さい．

２．書　式

２．１　タイトルページ

　タイトルページの１行目のみに，上の例のように左詰めで「溶接構造シンポジウム2023講演論文集（2023年11月）」と明朝９ｐｔで記入して下さい．なお，２ページ目以降は不要です．その後に１行あけて，タイトルは１ページ目の３行目からゴシック体１４ｐｔを用い，センタリングして下さい．１行あけて，著者の所属と氏名を明朝１２ｐｔを用いてこの例のように書いて下さい．著者が複数の場合，上の例のように講演者の氏名に○を付けて下さい．１行あけて英文タイトルをTimesの１２ｐｔでセンタリングして書いて下さい．さらに１行あけて著者名をこの例の通り英文でTimesの１２ｐｔでセンタリングして書いて下さい．

２．２　本文

　英語著者名の後，２行あけて本文を記述します．

２．２．１　見出し

　見出しのレベルは章，節，項の３段階とします．章は１．，２．，…のように，節は１．１，１．２，…のように，項は１．１．１，１．１．２，…のようにして下さい．いずれもゴシック体とし，章は１２ｐｔで，節，項は本文と同じ１０ｐｔで書いて下さい．章の区切りには１行をあけるものとし，節，項の区切りは特に読みにくくなければこの例のように１行あける必要はありません．

２．２．２　数式

　式番号は（１），（２），…のようにカッコ付きの通し番号として，式番号は右詰めで記入して下さい．本文中の引用は式（１），式（２），…のように書いて下さい．特に読みにくくなければ数式の前後に１行あける必要はありません．

２．２．３　図表

　図表は，本文で引用した箇所に近い場所に挿入して下さい．図表の前後には空白行を１行設けて下さい．図表のキャプション及び図表中の説明などは英語とし，Fig. 1，Fig. 2，…及びTable 1，Table 2，…のように通し番号を付け，本文中の引用もFig. 1，Fig. 2，…及びTable 1，Table 2，…として下さい．写真の場合もPhoto. ○は用いず，Fig. ○に統一して下さい．キャプションは本文と同じTimesの１０ｐｔとして下の例のようにお書き下さい．オフセット印刷しますので，鮮明な図表や写真を用意下さい．

（例） Fig. 1　Experimental apparatus

Table 1　Chemical compositions and mechanical properties

２．２．２　単位

　単位の記法はＳＩ単位にならって下さい．

２．３　参考文献

　本文の文末に空白行１行を設けてゴシック体１０ｐｔで「参考文献」と記入した後，１），２），…のように本文中の引用の順序にならべて記載して下さい．なお，溶接学会論文集の投稿規定の改訂（2002年4月より施行）にともない，**溶接構造シンポジウム論文集においても下記のように英文表記といたしますのでご留意下さい**．ただし，出展名が英文で記載されていない場合は和文表記でも結構です。過去の本シンポジウム講演論文集の引用も和文表記で結構です。本文中の引用はこの例１）のように右肩に付して下さい．

（略記）

　略記を使われる場合に，溶接学会誌はJ.JWS，溶接学会論文集はQuar.J.JWS，溶接学会全国大会講演概要集はPrep.Nat.Meet.JWSとします．その他についても同様とします．また，略記でなくとも結構です．

（例）

参考文献

1. K.Shiozaki, Y.Nakao and H.Kuroki: BondingPhenomena and Mechanical Properties of TLP-bonding Joint of Fe-base ODS Alloy, Quar. J. JWS, 14-1 (1996), 129-136. (in Japanese)
2. G.M.Evans：The Effect of Carbon on the Microstructure and Properties of C-Mn All-Weld Metal Deposites, Weld.J.,62-11(1983),313s-320s.
3. H.Kaneko: 金属熱処理原論, Maruzen (1971), 131. (in Japanese)
4. H.Hiramatsu, K.Michiba and A.Mizuta: Improvement of Adhesive Strength of Single Lap Joints by Increasing Rigidity, 溶接構造シンポジウム’99講演論文集, (1999), 469-476. (in Japanese)

３．PDFファイル作成について

　本講演論文集は投稿された原稿（PDFファイル）をそのままオフセット印刷しますので，以下に記された事項に従い，PDFファイルを作成してください．

　１）PDF形式の原稿のみ提出可能．

　２）必ず，フォント埋め込み形式で作成する（文字化け防止のため）．

　３）原稿をPDF形式に変換する際，画像の解像度は，600dpi程度にする．

　４）PDFファイル作成のためには，PDFファイル作成専用ソフトAdobe Acrobat 5.0以上をご利用下さい．

　５）MSP明朝およびMSPゴシックなどのOCFフォントは使用不可．

　６）PDF形式変換後は3MB以下．

４．表彰について

　本シンポジウムでは，優秀な講演論文（または講演者）に対し，溶接学会より溶接学会シンポジウム賞（論文賞）の表彰と，溶接構造研究委員会より奨励賞の表彰を行います．奨励賞の対象は講演者個人となりますので，本原稿に講演者の指定がない場合や当日講演者が交代した場合などは表彰の対象外となります．やむを得ず講演者を交代する場合には，できるだけ早く事務局幹事の岡野（TEL:06-6879-7559，E-mail:okano@mapse.eng.osaka-u.ac.jp）までご連絡下さい．

　表彰審査のため，提出期限に遅れた原稿は表彰の審査対象外といたしますので予めご了承下さい．

５．溶接学会論文集特集号へ投稿される場合の注意

　　本シンポジウム終了後に，本原稿を溶接学会論文集特集号に投稿する（投稿論文の本文にかえる）ことができますが，溶接学会投稿規定に従いますので，原則として溶接学会正会員に限られ，また国内外の他の刊行物に未投稿の物に限られます．原稿は溶接学会の論文査読・審査委員会における査読により採否が決定され，審査結果によって修正・削除などを要求されることがあります．

　溶接学会論文特集号への投稿要領、投稿開始時期等の詳細については、改めて溶接学会より著者へご案内いたします。なお、掲載ページ数に応じた掲載料が別途必要となりますことあらかじめご了承下さい。